

新築工事 / 南丹市園部町小山西町



9月下旬、棟上げをいたしました。  
棟上げをするためには、基礎の上に土台を伏せ、アンカーボルトにて緊結を行います。アンカーボルトの役割は、地震など家を横に押す力で基礎からずれたり落ちたりしないようにするためです。もう一点、色々な力が加わり、柱脚部に浮き上がりが発生することがあります。この柱脚の浮き上がりを抑える役割もしています。基礎と土台、基礎屋さんと大工さんの結合でもあります。たくさんの職人さんによる家づくりの始まりです。

担当：高野【コーディネータ】



断熱見学会

10月8日 日

会場：南丹市園部町  
第1部：10:00～11:30  
第2部：13:00～14:30



快適な暮らしに欠かせない、温熱環境の要、「断熱材」について知っていただく勉強会・見学会です。断熱材の材料、どんな風に施工されているのか、実際にご覧いただけます。

新築工事 / 大原野上里



9月の上旬に上棟を執り行いました。クレーンで大きな柱が持ち上がっていく姿はいつ見ても胸が熱くなります。10月末の完成にむけて、ここから一気に工事がすすんでいきます。



担当：藤田【不動産】

「え？今頃ひまわり大原野」の足場を組みました

毎年支援しているひまわり畑の見晴らし台足場を組みました。大原野のひまわり畑はご覧になりましたか？上空からハート型にデザインされたひまわりが見えて盛り上がります。今後も魅力ある町づくりに貢献できればと思います。



開催情報

家づくり勉強会

10月7日 土  
・8日 日  
11月11日 土  
・12日 日



会場：うぐいす台モデルハウス / 参加費無料  
第1部：10:00～11:30 第2部：13:00～14:30

「土地・資金計画と準備」「小野建築設計の家づくり」のんびりぐらしの家の仕様や資金計画の考え方等についてお話しします。

のんびりツアー秋紅葉狩り

11月25日 土 9:00～12:30  
集合：のんびり舎 / 参加費無料



秋の大原野の物件をめぐる自然や地域を知るツアーです。ご家族でお越しください。



※ご来場の際はご一報ください  
開場：10～17時 定休：水曜・祝日  
所在地：長岡京市うぐいす台 170-13  
電話：075-925-8876

おのファーム 稲刈り

10月15日 日 集合：おのファーム 8:00～お昼ごろ / 少雨決行



【持ち物】水筒・軍手・タオル・長靴 汚れてもいい服でお越しください。  
5月に田植えをした稲が、猛暑を乗り越え今年もたくさん実りました。秋風のもと、のんびり暮らしを体験しませんか。田植えや草取りなど2カ所ご体験していただいた方に、10/29(日)の顧客様感謝祭おのまつりにご招待いたします。たのしいゲームをはじめ収穫したお米で炊いた炊きたてご飯をお召し上がりいただけます。

のんびり体験会  
家づくり勉強会

ツアー・見学会・勉強会はすべて予約制です

電話：075-335-2254 または、webサイトお問合せフォームより、お申込みください



コラム | 大原野南春日町の古民家再生

古い建物に手を入れ、次世代が住み繋ぐ家へ進化させる

南春日町の古民家をお預かりし、細い道をぬけて現場に入ると柱は傾き、壁は崩れて時が止まったような家がありました。接道条件を満たしておらず、今のままでは再建築することはできないため、手入れされずに朽ちていく状態でした。



「このままにするには惜まれる」

痛みの激しい古民家ですが、現地調査を行っていくと、この家の魅力にも気づかれます。目の前の街道は和歌に詠まれた大原野神社への表参道であり、歴史も古くゆっくりと時間が流れている土地柄。崩れてしまった土壁を取り除くと、丸太の形をそのまま活かすように組まれた梁が見えます。真ん中には力強い大黒柱がはしり、経年により深まった黒い柱など、新築とはまた違う魅力が詰まっていました。

建築基準法では、道路に対して2メートル以上接していなければならない。大原野エリアでは珍しいケースですが、古い市街地に多く見られ社会的な課題となっています。



北からの眺めが素晴らしい

奥に進み北面を見渡すと、足元には田畑がならび、竹林が風に揺れ、遠くに比叡山を拝めます。当時の豊かで穏やかな暮らしが浮かんでくるようです。



職人の技術を求められる伝統的な工法と職人の育成のために

一軒一軒、土地や風土、丸太の状態から作られたオーダーメイドの家は、現代の量産された規格の建材はとても適応できません。再生させるには、当時の大工の手仕事を読み取り、それに適した材木を加工する技術が求められます。そのためには大工が長い時間をかけて知識や経験を培っていかねばなりません。私たちは、伝統建築を継承し、若手大工の育成を行っていくためにも古民家を蘇らせることに着手しました。

今後も工事の歩みや、工夫について発信していきます

